

2023 年度 活動計画

<総務>

- ・ 毎月 1 回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- ・ 幹事会の協力を得て、ニューズレターの年 8 回程度の発行を目指す。「自論公論」「イベントの案内・報告」「旅の千夜一夜物語」などの定例の記事の他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。
- ・ SRID サロンでは、新趣向の懇親イベントなどを企画して、会員間の親睦を図る。
- ・ 新設された勉強会の担当幹事として、活動が軌道に乗るよう支援する。(山下)

<広報>

- ・ 定期的に HP を更新し、年に 2 回 SRID ジャーナルの発行を支援する。
- ・ Facebook など各種メディアにより SRID 活動の全体的プロモーションを行う。
- ・ 必要に応じてパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。(山岡)

<懇談会>

- ・ SRID 非会員も参加できる公開イベント。国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマについてその分野のエキスパートに講演を頂く。そして、講演後に十分な質疑応答の時間を設けることで講演者も含めた全参加者が共に考える機会とする。
- ・ 懇談会のテーマと回数は登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに対応するが、国連関連と世界銀行などの国際開発金融機関関連を各 1 回、その他国際開発関連を 2 回、合計 4 回以上の開催を目指す。
- ・ コロナ禍は収束傾向にあるが、その利便性よりオンライン開催は続けるので、ネットワーク懇親会は開催できない。しかし、懇談会を通じて、キャリア開発事業や SRID ジャーナルを含めた SRID の活動に対する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発塾カウンセリング申込者増や SRID ジャーナル読者登録者増、さらに SRID 新規会員増に繋げる。
- ・ 懇談会の成功は魅力ある登壇者探しがキーであり、会員の皆様には、登壇の自薦や登壇可能な知り合いの方の紹介をお願いしたい。(小林)

<フォーラム>

- ・ 2022 年度は Zoom によるフォーラム開催を実施し、多くの会員の参加を得ることができた。今年度は状況が許せば対面での開催と合わせ、ハイブリッドの開催を検討する。開催の時期は 11 月か 12 月を優先して検討する。
- ・ テーマについては会員の関心の高いもの、会員の経験のある分野選定し、多くの会員が参加できるよう設定していく。(神田)

<SRID ジャーナル>

- ・ 2023 年度は SRID ジャーナル担当の編集委員 7 名（佐藤桂子、高橋一生、玉置佳一、中島千秋、福田幸正、山岡和純、湊直信）で企画・編集を担当する。7 月に第 25 号、2024 年 1 月に第 26 号を発行する予定である。特集は編集委員会で決定するが、激動する世界

における国際開発の最前線のトピックを選びたい。外部配信者は 2023 年 2 月時点で 592 名に達しており、順調な増加傾向を維持したい。

- ・ 第 25 号から新しいカテゴリーとして旅行記、回想、インタビュー、ブックエッセイ・書評(文芸作品、私の一冊)、私の一家言、読者フィードバックを設定した。これにより、より多くの会員からの執筆を期待したい。主な読者層は国際開発分野の実務者、研究者、及び大学院生などであるが、できるだけ SRID 会員や読者のニーズを汲み上げた紙面づくりを目指したい。(湊)

<キャリア開発事業>

2021 年度に改編された事業内容に沿って、SRID キャリア開発事業の活動として以下の 8 項目の活動を実施する。とりわけ、プロフェッショナル研修コース、キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラム、個人カウンセリングに事業の重点を置いて、他の事業との連携を強化する。(鈴木)

- ① 国際開発金融機関(MDBs)に焦点をあてたプロフェッショナル能力向上研修
- ② キャリア開発カウンセリング
- ③ SRID カウンセリング講師の研修
- ④ 開発分野で働く女性のためのフォーラム等キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラム
- ⑤ 出張講座 (要請ベース)
- ⑥ ロスターの作成・運用
- ⑦ 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携(要請ベース)
- ⑧ ニュースレター「SRID キャリア開発」の発信 2 回

<サロン>

2023 年度はオンラインでの開催を基本としつつ、特別企画として懇親会を兼ねた対面式サロンも復活させる。(山下)

<勉強会>

3 名以上の発起人を集め、勉強会の企画書を作成する。企画書が承認されたら会員の中から参加者を募集し、活動を開始する。必要に応じて関係団体と連携する。(山下)